

シート①「自閉症の診断基準となる障がい（行動の違い）」

障がい(困っている状況)が行動の違いとして表れる例		✓	本人の行動は？
コミュニケーションの障がい	ア 理解が難しい	<ul style="list-style-type: none"> ・言語で指示をしてもすぐに行動できない・指示されたことと違うことをする ・決まりきった場面での言葉はわかるが状況が変わるとわからないことがある ・同じ指示でもわかるときとわからないときがある ・短い言葉でないとわからない ・相手の言葉をそのまま繰り返す(反響言語・エコラリア) ・物を見て理解したり、勘違いしたりする(帽子を見て外出とわかる、間違うなど) ・とりあえず拒否をする/とりあえず「わかった」と言う ・抽象的・曖昧な(ちよつと、ゆつくり、できるだけなど)表現の理解が難しい ・他者から与えられる情報や指示に対して回避をする傾向がある ・冗談や駄洒落、慣用句などが理解できない/字義通りの理解 ・自分なりの解釈が多く周囲と理解がずれることがある 	
	イ 発信が難しい	<ul style="list-style-type: none"> ・行動(かんしゃく、パニック、身体表現など)で気持ちを伝える ・コマーシャルやアニメの台詞は言っても伝える手段で言葉を使えない ・自分にしかわからない言葉や、言い方がある(帰りたいと「りんご」と言うなど) ・指さしや相手の手をとって(ハンドリング・クレーン)訴える ・言葉の特定の機能しか使えない(要求のみ・あいさつのみ) ・伝え方が解らず相手の言葉をそのまま繰り返す(反響言語) ・この場所ではこの台詞、この人とはこの台詞とお決まりの台詞が多い ・文法が使えない(単語・二語文)/使っても助詞(がのにを)を間違える 	
	ウ やりとりが難しい	<ul style="list-style-type: none"> ・やりとりができない/かみあわない ・やりとりが続かない ・相手が複数になると対応できない ・唐突に話し出す・自分が知ることは相手も知っている前提で話をする 	
社会性の障がい	エ 相手の気持ちを想像できない	<ul style="list-style-type: none"> ・視線が合わない/一緒に同じものを見て気持ちを通わせることができない ・人とかかわりが一方的・相手の気持ちに関係なく行動する ・周囲にどのように見られているかわからない、興味がない ・相手の表情を読むことが苦手/特定の表情や雰囲気だけに過剰に反応する ・相手の気持ちをよく読み間違える 	
	オ 状況の理解ができない	<ul style="list-style-type: none"> ・視線を送っても意図することに気づかない ・友達がいらない・同世代の人と上手に付き合うことができない ・年齢相応の常識(社会のルール)が身につけていない ・周囲の様子から期待されていることを理解することができない ・その場にふさわしい(安全・迷惑等状況に配慮した)行動が取れない 	
想像力の障がい	カ 物の一部に対する強い興味	<ul style="list-style-type: none"> ・標識、ロゴ、数字、テレビCM、電車、DVDの繰り返しの再生 などの一部分に執着 ・細かいことが気になる ・没頭すると他からの関わりが困難になる ・自分の興味のないものに関心を示すことができない 	
	キ 常同・反復的な行動	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ場所に置きたい・同じ角度にしたいなどのこだわりがある ・同じ行動・活動、同じ言葉を何度も繰り返す・長時間続ける ・自分なりの手順、日課、道順などの自分ルールが多くある 	
	ク 変化への対応困難	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のルールを変えられることに抵抗がある/必要があっても変更できない ・活動の途中で介入されることを嫌う・抵抗を示す ・日課が変わる、担当者が変わる、場所が変わるなどの変更に弱い 	
感覚の障がい	ケ 感覚の敏感・鈍感	<ul style="list-style-type: none"> ・眩しがる。目を閉じる。帽子やフードを目深にかぶる。キラキラに没頭する など ・耳を塞ぐ。特定の音を嫌がる、怖がる。特定の音を大音量にしたがる など ・感触によって触れない、食べられない、着られない。脱ぎたがる、腕まくり など ・著しい偏食。特定の刺激の強い味を好む。同じものばかり食べるなど ・刺激臭を好む。特定の臭いを極端に嫌う など ・動きがぎこちない、不器用、力が入りすぎる など ・ぐるぐる回っても目が回らない、姿勢が悪い、高い場所が好き、絶えず動いている ・爪切り、散髪、歯磨き、洗髪など日常的な場面で激しく抵抗する 	
	コ 強み・得意なこと・好きなこと		

シート②「障がいのもとになる認知特性（質的な違い）」

特性の解説		行動との関連(可能性)	支援のアイデア
認知・記憶の質的な違い	1 同時に複数処理する(同時処理)	<ul style="list-style-type: none"> ・一度に2つ以上の情報を処理するのが苦手 ⇒聞きながら話せない・やりとり ⇒優先順位がわからない ⇒主体的(自分中心)にしか理解できない(自分と他者の状況を同時に処理できない) 	<ul style="list-style-type: none"> ・一度にたくさんの情報を提示しない。情報をシンプルに一つずつ処理できるように知らせる。 ・より具体的に目に見える情報や理解できる単語等を使う。 ・I - my - me - mine で伝える。
	2 情報処理の量(情報量)	<ul style="list-style-type: none"> ・情報が多いと処理しきれず混乱する ⇒長文だとわからない(理解することが困難) ⇒見えるものが多すぎると期待されている事に着目できない 	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて一つ一つより具体的に知らせていく。 ・どこで、何を、どのように本人が行動するかを情報に集中出来る環境で行う。
	3 情報処理の速度(処理速度)	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を処理するのに時間がかかる/速すぎる ⇒時間差で動き始める・後から不快を訴える ⇒その場で判断できない ⇒周囲が遅すぎて間延びし飽きる 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報処理中に情報を重ねて提示しない。 ・処理速度を把握し、保障する。
	4 忘れる(短期記憶)	<ul style="list-style-type: none"> ・記憶の維持が困難 ⇒今聞いたことをすぐに忘れる ⇒目的が遂行する前に目的を忘れる(特に指示が見えない場合など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今、どこに行くのか、何をやるのか、などを記憶できるように視覚的に保持できるオリジナルのアイテム等を用意する。
	5 忘れられない(長期記憶)	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に入った記憶が消えない ⇒失敗の経験を忘れない ⇒上書き保存が困難 ⇒フラッシュバックで混乱する ⇒一度学ぶとそれを継続するのは得意 	<ul style="list-style-type: none"> ・成功経験を増やすために短期記憶の保持を助け、視覚的説明、物事の明瞭化を図る。 ・ルーティンの保持は強み。
	6 見て学ぶ・見て関連付け(視覚優位)	<ul style="list-style-type: none"> ・目から入った情報を優先的に処理する ⇒見て学ぶことが得意 ⇒見えないものの理解が苦手 ・因果関係の結び付けが独特になりがち ⇒特定の人、場所、言葉などで、特定の出来事を想起しやすい ⇒見えるものに関連付けしやすい(適切な学習が阻害されやすい) 	<ul style="list-style-type: none"> ・想像力を働かせるものでなく、具体的に目に見える情報や理解できるツールを使う。 ・初めから成功体験で正しい関連付けを学べるように工夫する。 ・支援者や場所が変わっても混乱しない手がかりを使う。
アテンション(注意・注目)の質的な違い	7 注意・注目・切り替え(焦点化)	<ul style="list-style-type: none"> ・注意・注目への焦点化が強くて狭い ⇒見た刺激に影響を受けやすい ⇒注目すべき箇所を見つけられない ⇒気になる箇所が強くひきつけられる ⇒一度集中すると他に注目することが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境を整え刺激を少なくする。 ・着目してほしい部分を明確に。 ・現在やっている活動の終わりを明確にし、「終わったなら何があるのか」を伝える。 ・ごほうびを工夫する。
	8 整理してまとめる(組織化)	<ul style="list-style-type: none"> ・全体と部分を把握することが難しい ⇒全体の流れと現在を把握することが困難(見直し・はじまり・おわりの理解が困難) ⇒見通しがないので待つことが難しい ⇒場所の意味を理解することが難しい(多目的・多機能だと混乱しやすい) ⇒手順を考えるのが苦手 ⇒ことばで説明するのが苦手 	<ul style="list-style-type: none"> ・今、どこで、何をすればよいのか、終わったたらどうするのか見通しを知らせる。 ・どの場所で活動をどのように取り組めばよいのか、空間を明瞭化し、視覚的に知らせる。 ・本人の表現しやすいコミュニケーションツールを工夫する。
	9 要するに同じとわかる(般化)	<ul style="list-style-type: none"> ・細部が強調され違いに敏感(変化に弱い) ・似たようなことを要するに同じだと認識できない ⇒一つの場所で学んだスキルを他で応用することが難しい ⇒少し違うと動揺したりわからなくなったりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的説明をいつも同じやり方・同じ手がかりで伝える。繰り返しして活動を覚える。
運動・姿勢の質的な違い	10 感覚・運動	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚、前庭覚、固有覚などに鈍感や敏感がある ⇒苦手な刺激のある場所に行けない ⇒好き過ぎて没頭する ⇒不器用(微細運動)・ぎこちない(粗大運動)力の加減がわからない、動作が雑、極度に怖がる、跳びはね、回転、ロッキングなどでバランス調整を行う ⇒低反応を補うための自己刺激行動 ⇒コンディションにより辛さに強弱がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・耳栓/イヤマフ/サングラスなど刺激をコントロールするグッズを活用する。 ・安心できる回避場所を確保する。 ・適切な刺激を確保する。 ・回避や実施のルールを明確にする(いつ/どこで/どれくらい)